

GCOM-C/SGLI標準大気補正手法のアルゴリズムと処理結果

Features of GCOM-C/SGLI standard atmospheric correction scheme and its processing results

*虎谷 充浩¹、緒方 一紀²、福島 甫³

*Mitsuhiro Toratani¹, Kazunori Ogata², Hajime Fukushima³

1. 東海大学工学部、2. 宇宙航空研究開発機構/地球観測研究センター、3. 東海大学

1. School of Engineering, Tokai University, 2. Japan Aerospace Exploration Agency/Earth Observation Research Center, 3. Tokai University

2017年12月23日、海色衛星「しきさい」(Global Climate Observation Mission/ Second Global Imager:GCOM-C/SGLI)が打ち上げられた。SGLIは、可視・近赤外域(380-870nm)に11バンド、短波長赤外域(1000-2210nm)に4バンド、海水のわずかな色の変化を捉える輝度分解能を持ち、250m解像度で観測することができる。わずかな色の変化を観測するためには、大気吸収や散乱の影響の補正(大気補正)が必要である。JAXAの標準アルゴリズムとして使用されているSGLI用大気補正の特徴は、外洋向けの従来の海色大気補正手法と、沿岸の高懸濁物質濃度向けの短波長赤外域を使う手法を組み合わせている点である。この大気補正手法による処理結果について、MODISデータとの比較結果を報告するとともに、残されている課題について説明する。

キーワード：海色リモートセンシング、大気補正

Keywords: ocean color remote sensing, atmospheric correction